

宮崎県新富町（国内 45 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 7 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は平野部に位置し、周辺は畑や雑木林であり、別の養鶏場が隣接している。
- ② 当該農場は、40 例目の農場（令和 3 年 1 月 31 日発生）から南東に約 400m に位置している。1 月 31 日の調査時、40 例目の農場から約 2.5km の距離にある池ではマガモ 366 羽、カルガモ 204 羽、コガモ 36 羽等、計 600 羽以上の水鳥類が、発生農場から約 4.0~7.0km の距離にある入江、河口、調整池等では、カルガモ 529 羽、ヒドリガモ 511 羽、マガモ 406 羽等、計 1,800 羽以上の水鳥類が認められている。
- ③ 当該農場には、金網式の床で仕切られた 2 階建て構造のウィンドレス鶏舎 3 棟があり、鶏舎ごとに日齢の異なる採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、3 棟の中央に位置する鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 40 例目の発生に伴い実施した発生状況確認検査において、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎の 1 日あたりの死亡鶏は 15 羽程度で推移していたとのこと。
- ③ 2 月 6 日に、発生鶏舎 1 階の出入口から最も遠い列の中央から奥の複数のケージにおいて、数羽の鶏がまとまって死亡しているのを確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の従業員 5 名が鶏舎管理を担当しており、担当鶏舎は月ごとに定められていた。飼養管理者によると、毎日鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、鶏舎内に立入る従業員は事務所で農場専用の作業着や作業靴を着用していた。また、各鶏舎に入る際は鶏舎専用の作業靴に交換していたとのこと。鶏舎入口にはアルコールスプレーが設置されており、日常的に手指消毒を行う運用になっていた。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は井戸水が利用されており、消毒の上、鶏舎に供給されていた。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞は除糞ベルト及びベルトコンベアで鶏舎から搬出し、農場内の堆肥舎で一次発酵した後、系列会社の車両で農場外の系列会社の堆肥処理施設に運搬していた。なお、系列会社の堆肥処理施設のある敷地内に車両が出入りする際は、消毒ゲートにより消毒を実施していたとのこと。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、毎日、衛生管理区域内の死鳥保管庫に運搬していた。死鳥保管庫からは業者が回収しており、死鳥保管庫に出入りする車両については、衛生管理区域入退場時に消毒を行っていたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、普段は農場敷地内のほぼ全域に週 1 回程度消石灰を散布していたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、農場敷地内に入る車両は、農場入口付近に設置された消毒ゲ

ートによる消毒を行っていたとのこと。なお、消毒ゲートは隣接農場と共有していた。

- ⑧ 当該農場の鶏舎構造は、鶏舎入口側の壁面に設置されたクーリングパッドから給気して、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気する構造であった。また、入口側の左右の側壁も一部にクーリングパッドが設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内にはハト、スズメ等が飛来するとのことであり、調査時にもこれらの野鳥が確認された。なお、鶏舎内で野鳥を確認したことはないとのこと。
- ② 飼養管理者によるとネズミは時折、鶏舎内で確認するとのことであり、ネズミ対策（殺鼠剤や鶏舎外周への箱罠の設置）を行っているとのこと。調査時にも、鶏舎内でネズミ（生体及び死体）が確認された。
- ③ 鶏舎から集卵施設までの集卵ベルトの経路は上部及び左右が板で覆われていたが、下部は覆われていなかった。また、除糞ベルトの鶏舎外への開口部についても隙間が確認されており、ともに野生動物が侵入することが可能な状態であった。